

決算説明資料

2021年3月期 第2四半期

株式会社ユビキタスAIコーポレーション

代表取締役社長 長谷川 聡

2020年11月13日

Index

- 第2四半期業績の概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第2四半期業績の概要

第2四半期（累計期間）の概況

業 績

- ・ コロナ禍の影響を受け売上高・営業利益ともに減少
- ・ 連結売上高 : 792百万円（前年同期比 26.9%減）
- ・ 連結営業損失 : 212百万円（前年同期 営業損失40百万円）

セグメント別概況

ソフトウェアプロダクト事業

高速起動は車載機器関連のロイヤリティ売上が減少、コネクティビティ&セキュリティは自社製品開発注力、受託開発をソフトウェアサービス事業へ移管したことで売上減

ソフトウェアディストリビューション事業

自動車関連がコロナ禍及び商材消失の影響で売上減、その他も全般的にコロナ禍の影響を受け売上減

ソフトウェアサービス事業

車載機器関連のコンテンツライセンスがコロナ禍の影響で売上減、顧客予算縮小による受託開発案件消失などの影響で売上減

連結損益計算書

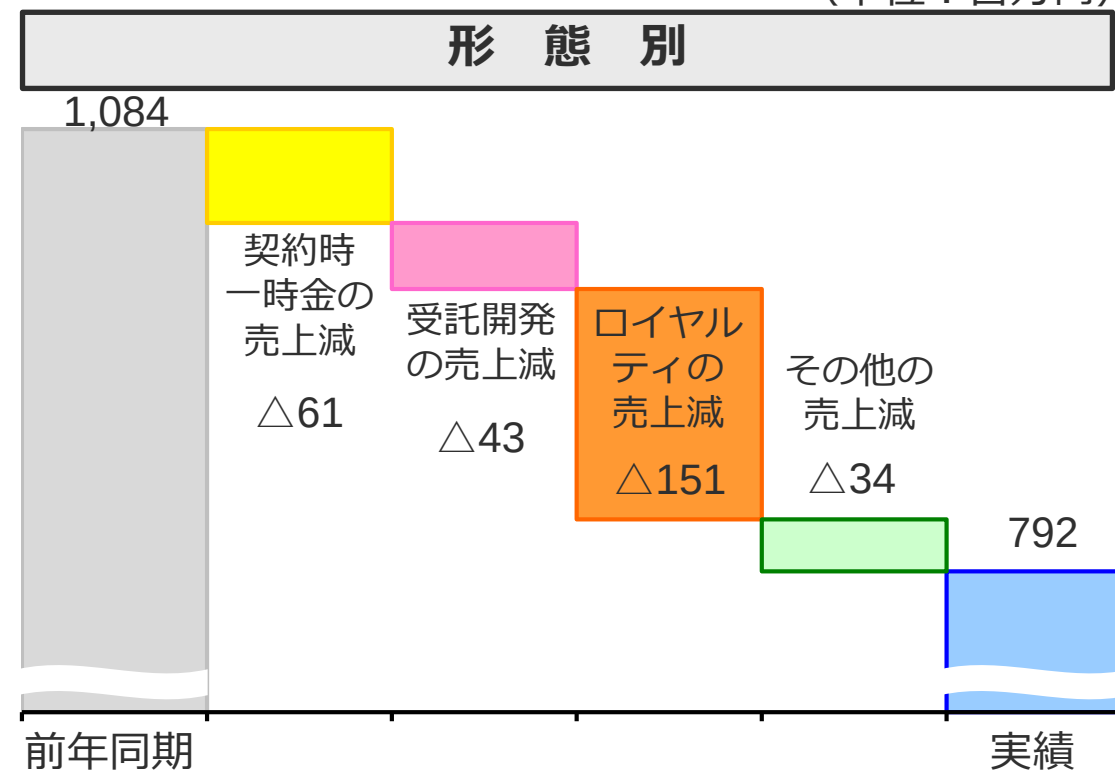
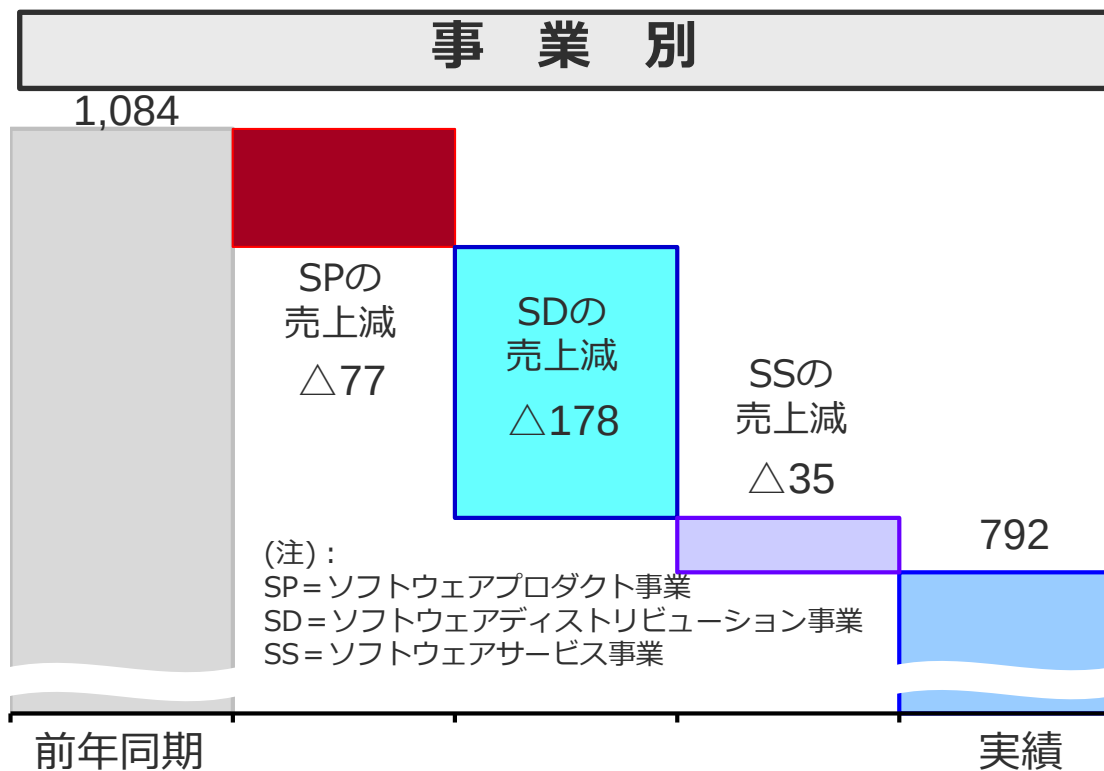
(単位：百万円)

	前年同期	2020/3期 (第2四半期)	増減
売上高	1,084	792	△291
売上原価	602	482	△120
売上総利益	481	310	△171
販管費	522	522	-
営業利益	△40	△212	△172
営業外損益	2	2	△0
経常利益	△37	△210	△172
特別損益	-	-	-
法人税等	16	15	△1
四半期純利益(※)	△54	△225	△171

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期比：売上高

(単位：百万円)

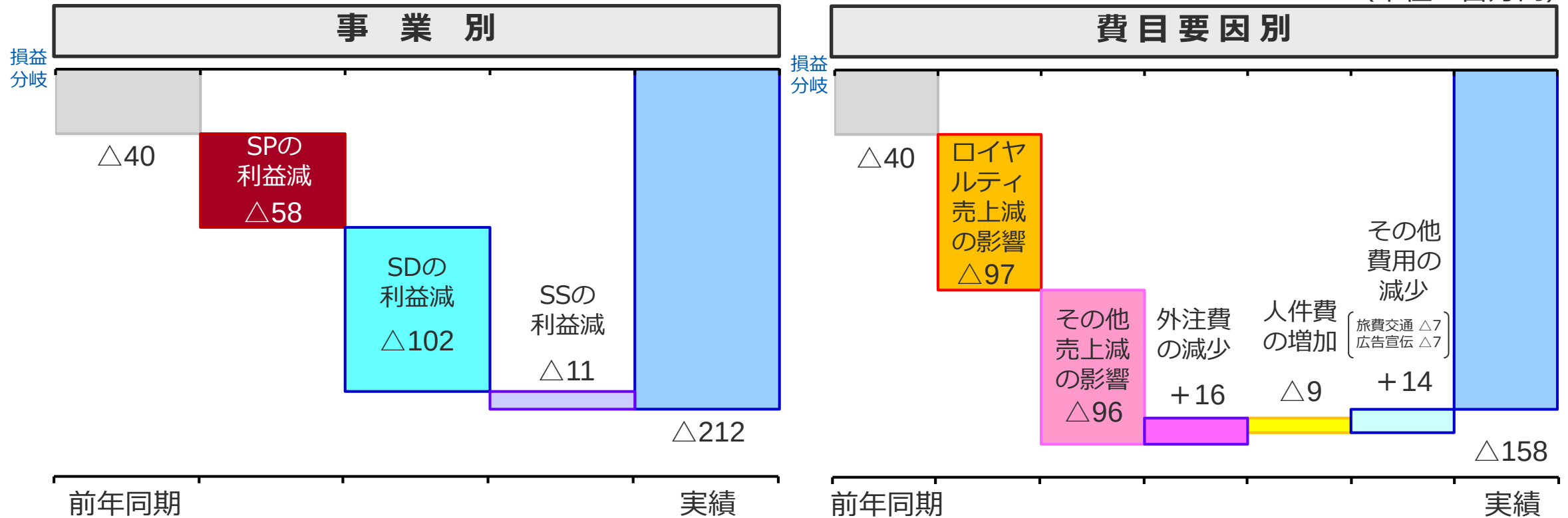


■ 前年同期比 売上高：減少

- SP事業： 全般的に売上減、高速起動は車載機器関連、コネクティビティ&セキュリティは受託開発減が大きく影響
- SD事業： 全般的に売上減、コロナ禍と商材消失による自動車関連売上減が大きく影響、その他売上もコロナ禍が影響
- SS事業： 全般的に売上減、コロナ禍の影響による車載機器関連のコンテンツライセンス、受託開発案件に影響

前年同期比：営業利益

(単位：百万円)

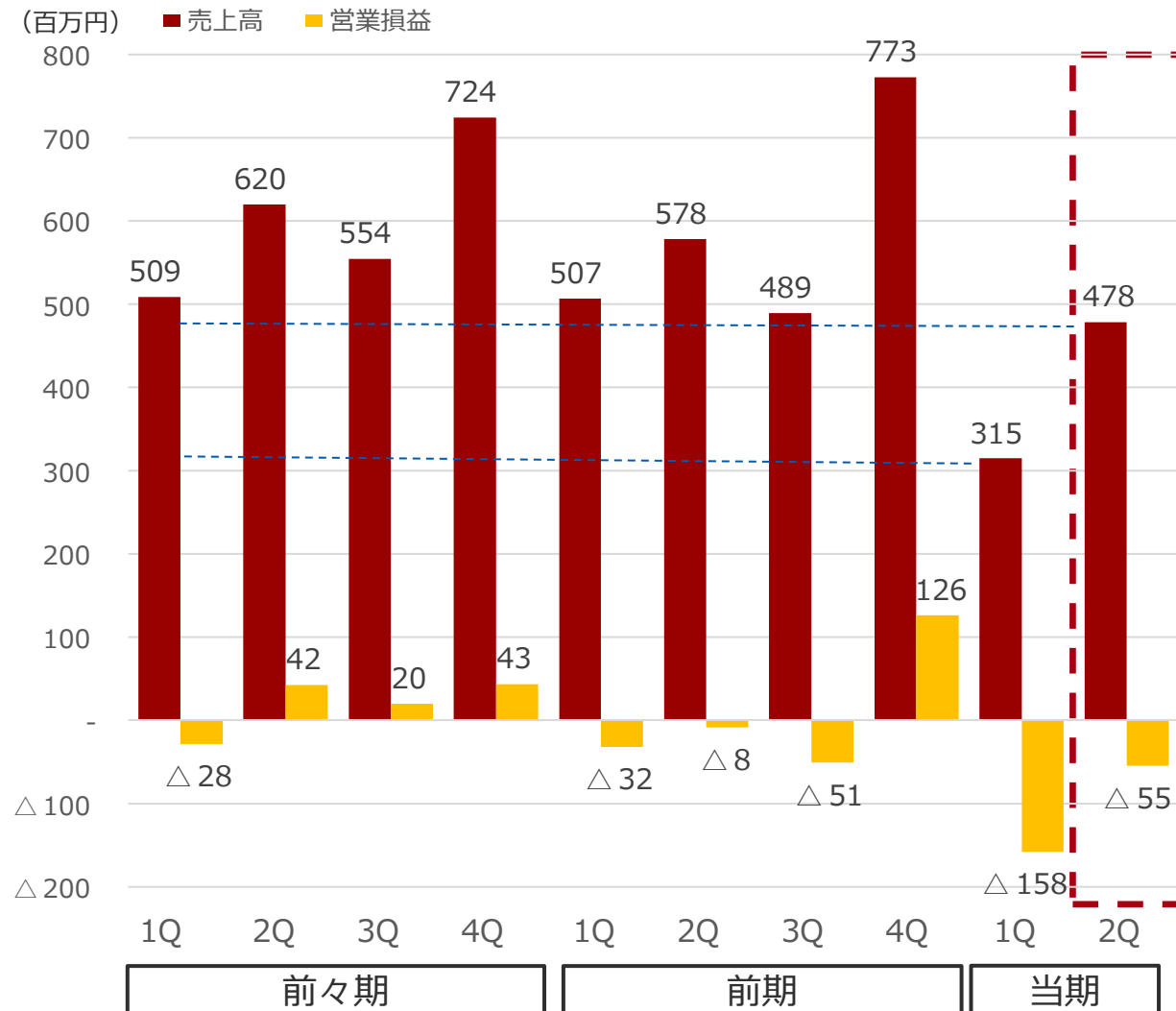


■ 前年同期比 営業利益：減少

- － SP事業、SD事業、SS事業全体で売上減の影響により、営業利益が減少

コロナ禍の業績への影響

【参考】四半期 連結業績推移



■ 上半期業績への影響

- 影響の大きい項目・範囲：車載機器関連、新規案件
- 車載機器関連
 - ・ 自動車販売台数（4-6月大幅減、7-9月回復）に伴い、採用済み製品のロイヤリティは回復基調
- 新規案件
 - ・ 顧客の案件消失・予算縮小などによる新規開発案件
 - ・ 研究開発の中止、先送りなどが発生、第2四半期はコロナ禍による作業中止に伴う期ズレは解消しつつあるが、新規案件は全般的に低調が続いている

■ 通期の業績予想

- 売上高前年同期比が第1四半期(△192M)に対し第2四半期(△100M)は減少幅が縮小、回復基調にあるが、上半期減少分(△292M)の下半期積み上げは現況勘案では厳しく、通期営業赤字の可能性もある
- 新型コロナウイルス感染症第三波の懸念もあり、現時点で通期業績予想を合理的に算定することは難しく、第3四半期の結果を勘案するなどし、必要に応じた対応を行う予定

連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

	2020/3月末	2020/9月末	増減
現金・預金	934	877	△57
受取手形・売掛金	740	399	△341
有価証券	800	900	100
棚卸資産	-	30	29
前払費用	59	48	△11
その他流動資産	27	66	38
流動資産	2,563	2,321	△242
のれん	316	211	△105
その他固定資産	397	392	△5
固定資産	714	603	△110
資産合計	3,277	2,924	△352

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

	2020/3月末	2020/9月末	増減
買掛金	160	87	△73
未払金	38	36	△1
前受金	91	80	△10
その他流動負債	92	35	△57
流動負債	382	240	△142
固定負債	82	80	△1
資本金	1,483	1,483	0
資本剰余金	1,453	1,453	0
利益剰余金	△159	△385	△225
その他純資産	35	52	16
純資産	2,812	2,604	△208
負債・純資産合計	3,277	2,924	△352

通期業績予想（連結）に対する進捗

（単位：百万円）

	通期 業績予想	第2四半期 実績	進捗率（%）
売上高	2,362	792	33.6
営業利益	12	△212	—
経常利益	12	△210	—
純利益	△46	△225	—

セグメント及び 製品分野別動向と取り組み

前年同期比:セグメント及び製品分野別売上高

(単位:百万円)

セグメント	分野	前年同期 (連結)	2021/3期 第2四半期 (連結)	増減率
ソフトウェアプロダクト事業	コネクティビティ&セキュリティ	72	25	△65.4
	高 速 起 動	189	158	△16.3
	デ ー タ ベ ー ス	33	34	2.1
	小計	295	218	△26.3
ソフトウェアディストリビューション事業		617	439	△28.9
ソフトウェアサービス事業		171	135	△20.8
合計		1,084	792	△26.9

前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2021/3期 第2四半期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	295	218	△77
	セグメント利益	15	△42	△58
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	617	439	△178
	セグメント利益	※1 △25	※1 △128	△102
ソフトウェアサービス 事業	売上高	170	135	△35
	セグメント利益	※2 △30	※2 △41	△11

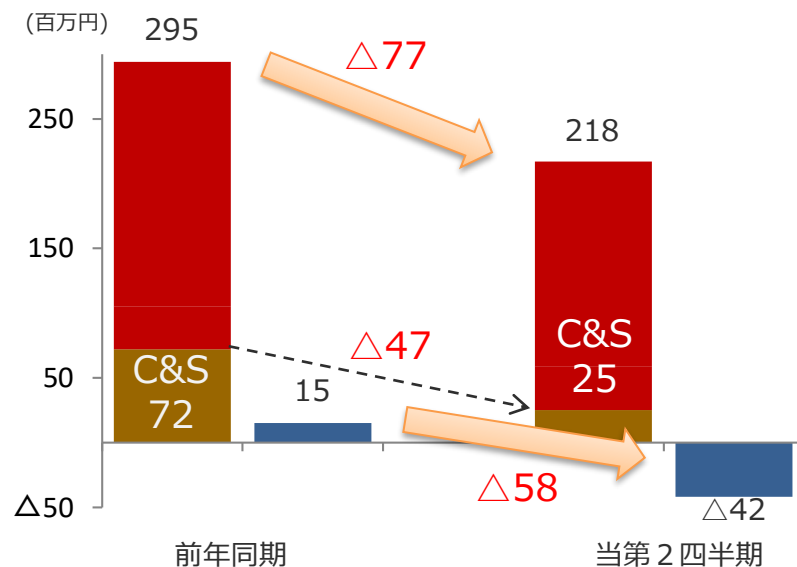
※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 53百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 51百万円を含めております。

前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2021/3期 第2四半期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	295	218	△77
	セグメント利益	15	△42	△58
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	617	439	△178
	セグメント利益	27	△75	△102
ソフトウェアサービス 事業	売上高	170	135	△35
	セグメント利益	21	10	△11

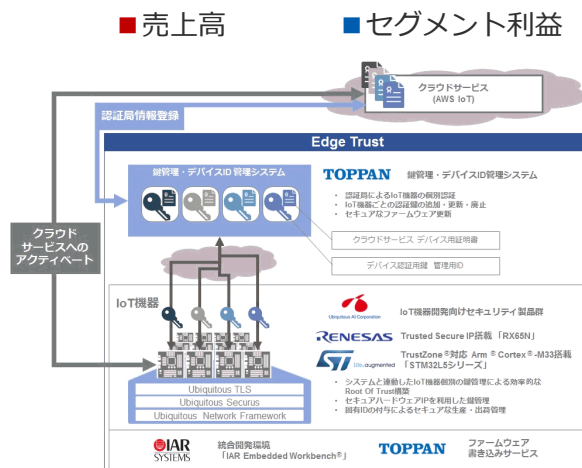


■ 当四半期概況

- 「Edge Trust」関連の半導体メーカーとの研究開発案件で売上を計上
- スマートエネルギー関連の受託開発案件で売上を計上
- 車載機器向けセキュリティ製品のロイヤルティ売上を計上
- IoTシステムとブロックチェーンを組み合わせたデータ改ざん防止ソリューションに関する独自技術を開発し、特許を申請したことを発表

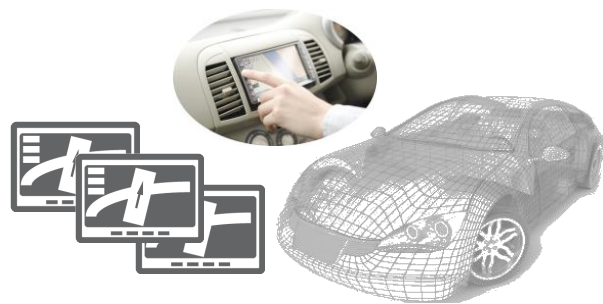
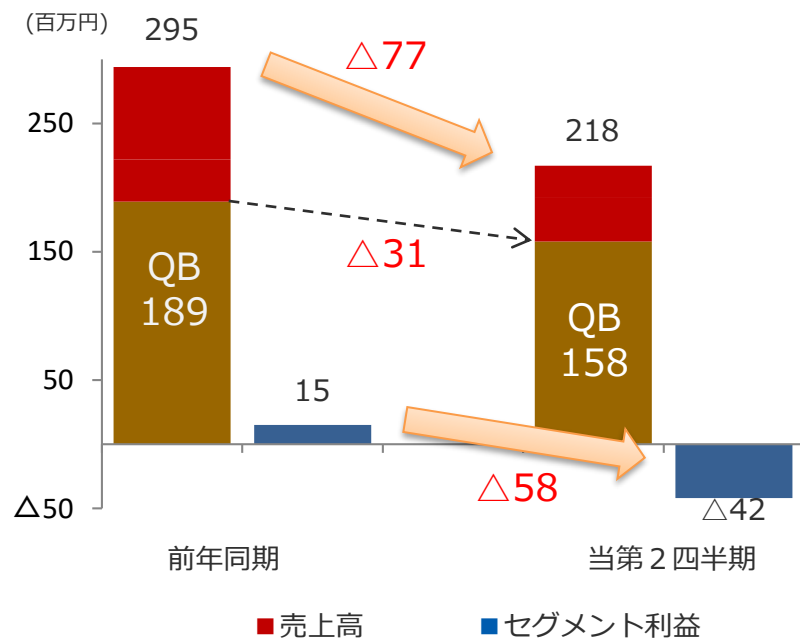
■ 取組方向性

- 「Edge Trust」を中心としたIoTセキュリティ分野での事業展開に注力、組込みからクラウドまで、セキュアなIoTサービスを実現するために必要な幅広い分野のパートナーとの連携を強化
- 車載、産業、IoT分野を中心としたセキュリティ関連製品の拡販活動



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、コネクティビティ & セキュリティ関連のみの売上です。

ソフトウェアプロダクト事業 高速起動関連



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上です。

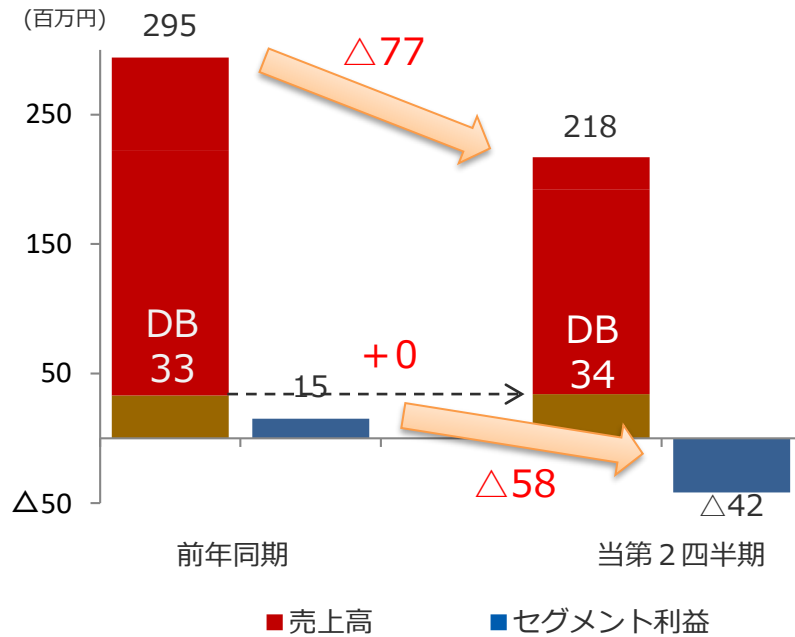
■ 当四半期概況

- 車載機器関連、海外民生機器を中心とした既存顧客からのロイヤルティ売上を計上、第1四半期大幅減少となったロイヤルティ売上は自動車販売台数の回復と共に回復基調、新規案件獲得が低調
- カーナビ等車載向け機器を中心に、複数社との間で大・中規模案件の研究開発が継続中

■ 取組方向性

- 海外市場向けの販売を強化
- 車載情報端末以外の車載機器向けの拡販を強化
- 電源断対応ファイルシステムや仮想化技術、セキュアブートなどの機能組み合わせなど付加価値の高いソリューション化、クロスセルを推進
- 次世代技術開発の継続

ソフトウェアプロダクト事業 データベース関連

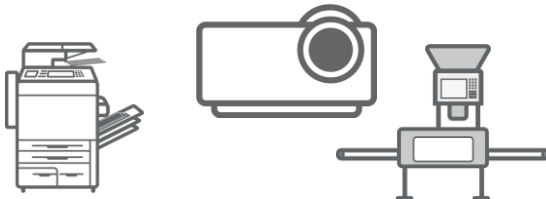


■ 当四半期概況

- 産業機器等の既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

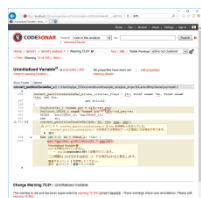
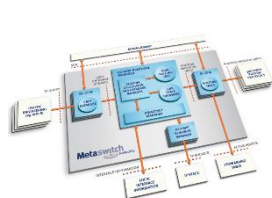
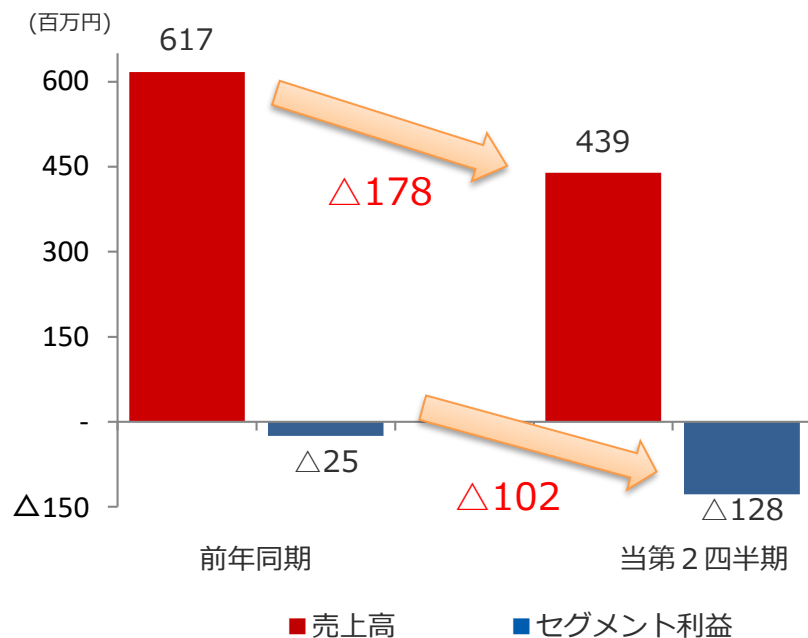
■ 取組方向性

- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上です。

ソフトウェアディストリビューション事業



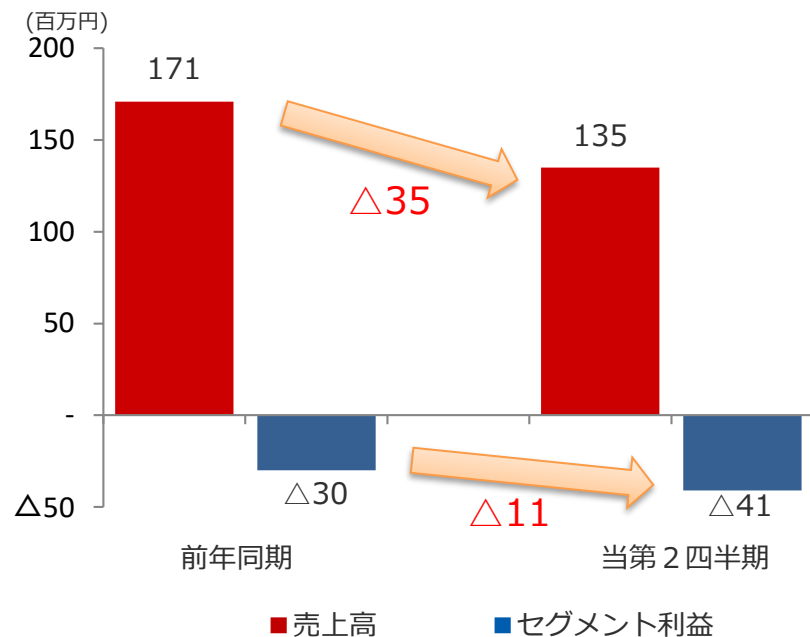
- *1 Insyde H2O®: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS
- *2 CodeSonar: ソフトウェアの動作不具合、脆弱性をソースコードのコンパイル時に静的解析し、バグを検出するツール
- *3 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック
- *4 CoDriver: ドライバーモニタリングシステム

■ 当四半期概況

- BIOS製品：ノートブックPC等の既存顧客から「Insyde H2O® *1」のロイヤルティ売上等を計上、前年度のWindows7サポート終了需要の反動懸念も、テレワーク等によるノートパソコン需要からコロナ禍の影響が減少
- 品質向上支援ツール製品：車載機器等の既存顧客から「CodeSonar *2」の年間ライセンス売上等を計上、一部車載機器向け製品の消失、予算縮小に伴う契約終了の影響が発生
- ワイヤレス製品：車載機器等の既存顧客から「Blue SDK *3」のロイヤルティ売上等を計上、ロイヤルティ売上は自動車販売台数の回復と共に回復基調
- AIソリューション製品：車載機器の既存顧客から「CoDriver *4」のロイヤルティ売上等を計上
- その他、多数の取扱い製品より、新規、既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上、全般的に新規案件が低調

■ 取組方向性

- コロナ禍によるニーズの変化に対応した製品・技術の発掘
- AI関連製品の取扱を強化（当四半期で2製品の新規取扱開始）
- 自動車関連のツール取扱強化として、エー・アンド・デイ社と業務提携、車載システムソフトウェア開発用シミュレーターを共同開発開始、2021年4月発売を目指す
- 年間利用ライセンス契約により収益安定貢献度の高いソフトウェア、品質向上支援等のツール製品を重点的に販売促進



■ 当四半期概況

- 既存顧客からの各種受託開発売上を計上
- データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス使用料売上等を計上

■ 取組方向性

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サタマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウユミ

アーティスト表記でソート		YOMIでソート	
ソート順位	アーティスト表記	ソート順位	YOMI
1	L'Arc-en-Ciel	1	サザンオールスターズ
2	サザンオールスターズ	2	さだまさし
3	さだまさし	3	松任谷由実
4	松任谷由実	4	L'Arc-en-Ciel

新たな取り組み：AI関連製品

AI関連の新規製品取扱強化

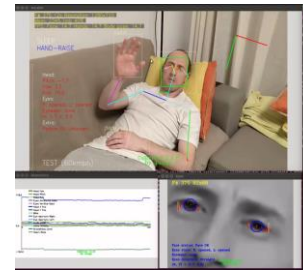
< AI関連の新規取扱製品（～2020/11） >



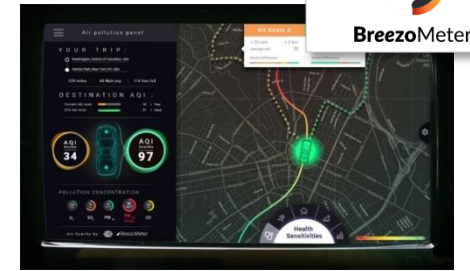
ディープラーニングで事故防止



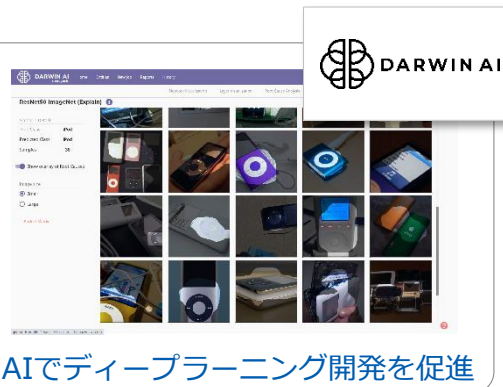
AIを活用したタッチレスHMI



AIを活用した患者のモニタリング



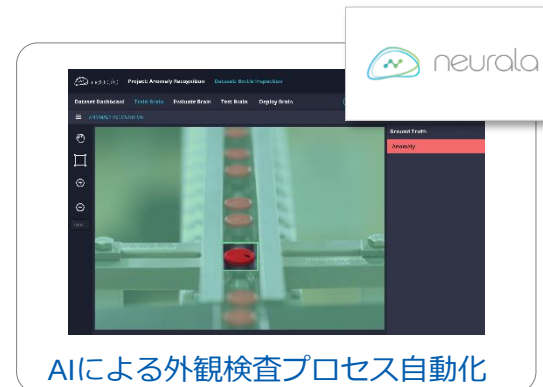
AIによる大気質解析



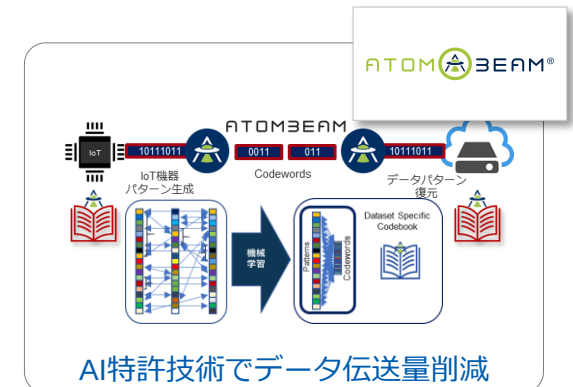
AIでディープラーニング開発を促進



自己学習が可能なエッジAI



AIによる外観検査プロセス自動化



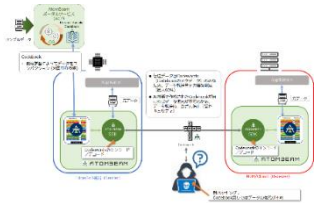
AI特許技術でデータ伝送量削減



AI関連製品ラインアップの追加と共に顧客への導入支援体制を強化

新たな取り組み：IoT＋セキュリティ

セキュアなIoTサービスに向けたラインアップ強化



IoTデータ圧縮・セキュア通信AIソリューション
「AtomBeam」



IoT機器データの分散台帳化による改ざん防止
「ビジネスブロックチェーンソリューション」

電子機器のIoT化に必要な組み込みソフトウェア製品・開発支援
IoT機器のセキュアな実装支援

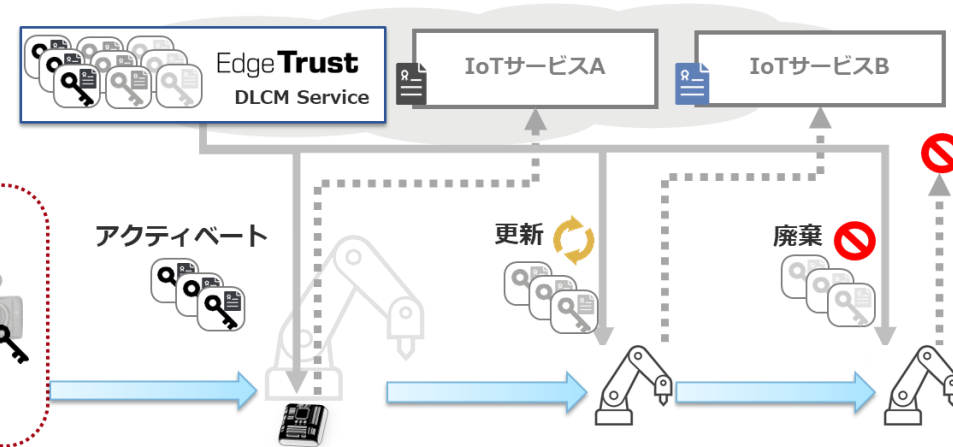
「組み込みソフトウェアソリューション」



脆弱性検証ツール
「beSTORM X」



IoT機器のセキュリティ検証・コンサルティング
「IoT機器セキュリティ検証サービス」



IoT機器の定期健診サービス
「Edge Trust Health Check」

IoTセキュリティ関連のサービスおよびソリューションを強化

新たな取り組み：IoT+セキュリティ

幅広い提携によるソリューションの実現

IoT機器のライフサイクル



Edge**Trust**



TOPPAN

デバイスライフサイクルマネジメントサービス



・IoT機器向け組込みソリューション **TOPPAN**

- ・IoT機器開発支援
- ・IoT検証サービス

・ファームウェア書込サービス



Serverworks

・AWSインテグレーション



・産業IoTプラットフォーム



・IoTデータ圧縮・セキュア通信AIソリューション



・Trusted Secure IP搭載
「RX65N」



・TrustZone®対応
Arm® Cortex® -M33搭載
「STM32L5シリーズ」



・IoT機器の定期健診サービス
「Edge Trust Health Check」



・統合開発環境
「IAR Embedded Workbench®」



・Business Blockchainソリューション
(開発中)

E
O
L

組込みからクラウドまでワンストップでのソリューションを提供

トピックス

車載専用ノイズ/エコーキャンセラー 「BdSound S2C-A」提供開始 (8/19)



車内ノイズ・エコーキャンセリング機能を低価格で提供
車内での高品質な音声信号の活用を可能にし、ユーザー体験の向上に役立つ

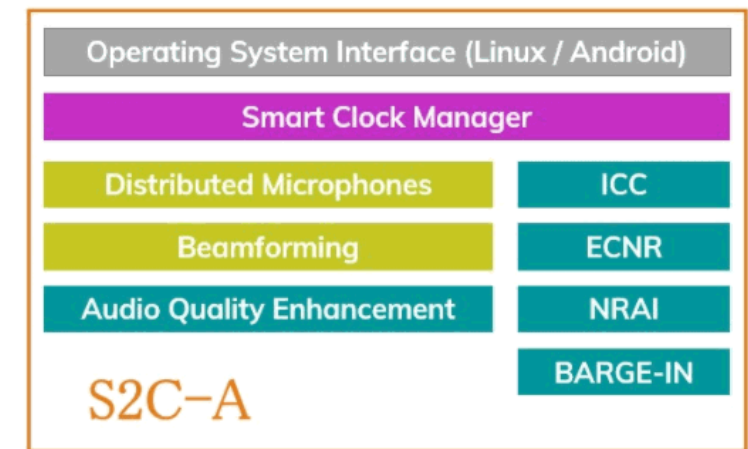
■ 提供開始の背景

- 自動車業界では、安全性に加えて車内体験の向上が求められ、MaaSへの取組みが進む
- 機器の音声操作や、ボイスアシスタントによる運転支援機能などの更なる拡がりが予想される
- 新機能の追加、機能性の向上によるコストの増大が課題

■ 「BdSound S2C-A」の主な特長

- BdSound社（本社：イタリア）の独自技術によって、従来のECNR※ハードウェアモジュールでは実現困難だった課題を解決
- 他のECNRソフトウェアと異なり、システム開発者が、いつでも手軽にパラメータチューニングを行い、理想的な車内のボイスコミュニケーション環境を簡単に作り上げることができる
- 50モデル以上の自動車に搭載、アップル社によるApple CarPlay®認定を取得

※ECNR : Echo Canceller and Noise Reduction



AI活用の自動外観検査システム開発用ソリューション 「VIA（ヴィア Vision Inspection Automation）」提供開始（9/30）

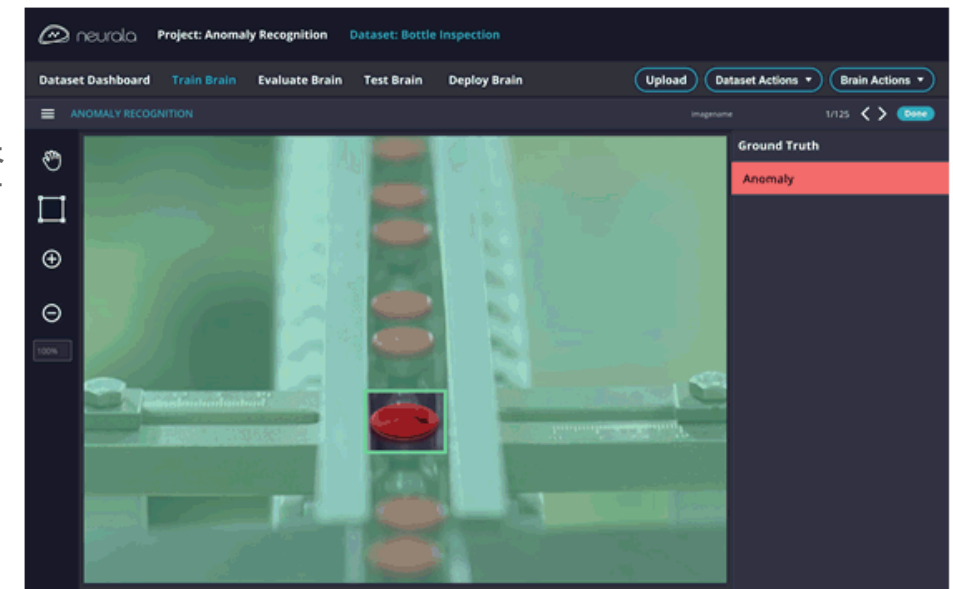
1CPUで最大4カメラを使用して同時検品
接触感染防止にも効果を期待

■ 提供開始の背景

- 人手不足により、生産現場では生産性を上げながら、いかに品質を保つかが大きな課題
- 外観検査の自動化は、生産性の向上と製品検査の省人化に繋がるだけでなく、人と製品の接触を減らし、感染症対策としても有効

■ 「VIA」の主な特長

- Neurala社(本社：米国)が開発したAIによる自動外観検査システム開発用のソリューション
- 顧客企業は、高額なハードウェア投資もAI人材も膨大なデータも不要。簡単に外観検査プロセスを自動化可能
- 1 CPUでモデルの学習と最大4カメラでの立体認識による同時検品に対応、コストダウンに大きく寄与



<VIA活用イメージ>

先端SAST(静的アプリケーションセキュリティテスト)ツール 「ThunderScan®」提供開始 (11/5)

DevOps 環境とCI/CD パイプラインに容易に統合可能
多数言語対応の高精度SAST ソリューション

■ 提供開始の背景

- IoT機器向けソフトウェアにもセキュリティ対策の必要性
- Security by Designの実践や、従来のDevOpsの開発/運用工程全てにセキュリティを組み込んだDevSecOps※環境の導入が推奨・実践され始めている

■ 「ThunderScan®」の主な特長

- DefenseCode社（本社：アイルランド）が開発した約30種類のプログラミング言語に対応したSASTツール
- アプリケーションに潜む脆弱性をソースコードから高精度に検出することが可能

※DevSecOps：ソフトウェアの開発担当者と運用担当者が密接に協力しあって体制を構築し、各種プロセス内の作業を自動化しながらソフトウェアの導入や更新を迅速に進めるDevOpsのプロセスに、セキュリティ対策を組み込んだもの



<ThunderScan®レポートイメージ>

IoTデータ圧縮・セキュア通信AIソリューション 「AtomBeam」提供開始（11/10）

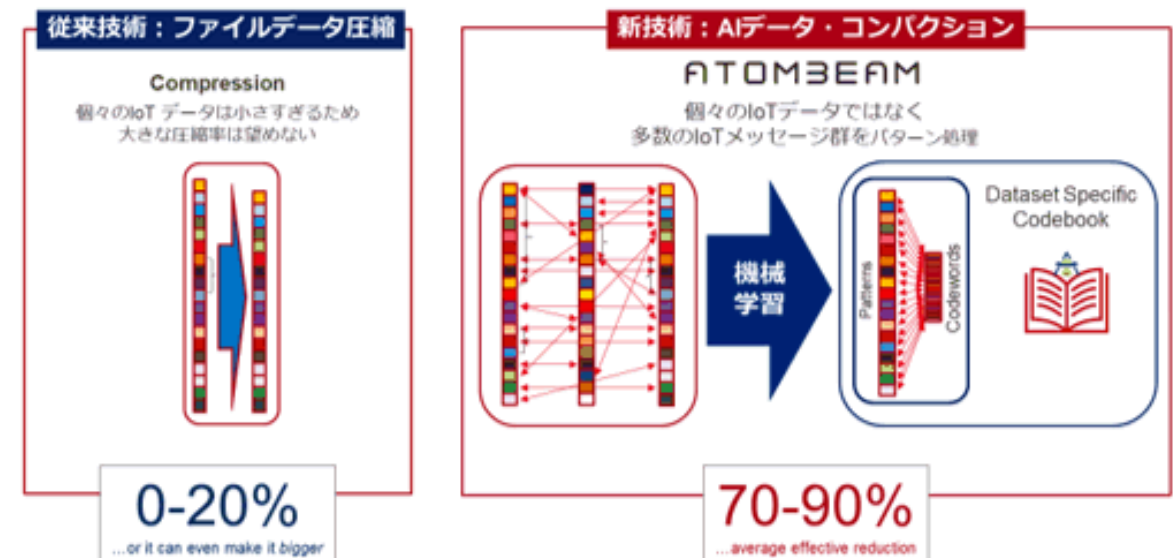
AI特許技術※でIoT/M2Mデータ伝送量を70-90%削減
セキュリティを確保しつつ、非常に効率的にデータをエンコードして最小化

■ 提供開始の背景

- 5Gの普及に伴い、IoT/M2M通信のデータ伝送量の増加は、更に加速すると予想
- 今後、送信データ量の大幅な削減が課題に

■ 「AtomBeam」の主な特長

- AtomBeam社(本社:米国)の特許取得AIエンジン「AIデータ・コンパクション」技術を使用
- セキュリティを確保しながら非常に効率的な方法でデータをエンコードして最小化
- 小型のIoT/エッジ機器でも、効果的なデータ処理が可能に
- 実行遅延時間はゼロに近く、代表的な圧縮アルゴリズムに比べ400倍高速



※AI特許技術：従来の圧縮技術とは異なる全く新しい技術（特許番号：US 10,509,582 B2）

＜AtomBeam社のAIデータ・コンパクション技術＞

Appendix

2021年3月期 第2四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第2四半期	7月 1日	■ ユビキタスAIコーポレーションとエー・アンド・デイが業務提携 ～車載システムソフトウェア開発用シミュレーターを共同開発SILS/HILSの連携でテスト効率を大幅に改善～
	7月 9日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Tuxeraと代理店契約を締結、 外付けストレージ向けの高性能NTFSファイルシステム「Microsoft NTFS by Tuxera」を7月9日より提供開始
	7月 9日	■ ユビキタスAIコーポレーション、IoTシステムとブロックチェーンを組み合わせたデータ改ざん防止ソリューションに関する独自技術を開発、特許取得へ
	8月19日	■ ユビキタスAIコーポレーション、車載専用ノイズ/エコーキャンセラー「BdSound S2C-A」を提供開始 ～グローバル車載市場に特化した高品質、低コストの音声ソリューション～
	9月23日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Visu-IT!社と販売代理店契約を締結、車載ECUソフト開発向け各種ツール、ミドルウェアを10月1日より提供開始
	9月30日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Bluetoothメッシュプロトコルスタック「Blue SDK Mesh」を9月30日より提供開始 ～次世代IoTで重要な役割を担う相互接続性の高い無線ネットワークソリューション～
	9月30日	■ ユビキタスAIコーポレーション、AI活用の自動外観検査システム開発用ソリューション「VIA」を提供開始 ～1CPUで最大4カメラを使用して同時検品。接触感染防止にも効果を期待～
第3四半期 (参考)	11月 5日	■ ユビキタスAIコーポレーション、先端SAST(静的アプリケーションセキュリティテスト)ツール「ThunderScan®」を11月5日に提供開始
	11月 5日	■ ユビキタスAIコーポレーション、RISC-V対応した商用リアルタイムOSの最新版を11月6日(金)に販売開始 ～高速動作・省メモリ・省電力の商用RTOSで、組込み機器の高性能化、低価格化を実現～
	11月10日	■ ユビキタスAIコーポレーション、AI特許技術でIoT/M2Mデータ伝送量を70-90%削減するIoTデータ圧縮・セキュア通信AIソリューション「AtomBeam」を11月10日に提供開始

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation